① 看護学生の高齢観の関連要因と因子分析
② ICT 活用による新たな高齢者ケアの可能性

看護学科（老年看護学）　宮澤 典子

● 連 絡 先　TEL：054-202-2658
E-Mail：m.noriko@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード
高齢者，ICT，オンライン面会，高齢者観，ケア

① 国連の世界保健機構の高齢者の定義は「65歳以上」であり、医療環境・衛生環境の改善を受けて世界的に平均寿命は延伸し、それを受けて世界人口に占める高齢者の割合が高くなっており、益々高齢者支援が大きな課題となっている。日本の平均寿命は87.45/81.41歳（2019年女/男）、高齢化率28.7％（2020年時点）と超高齢社会になり、厚生労働省は、「人生100年時代」を標榜し、超高齢社会に対応できる制度整備が急務になっている。日本でも WHO の定義と同義にて高齢者の定義は「65歳以上」を示しているが、平均寿命・健康寿命の延伸を受け、心身の機能を科学的・客観的に評価して75歳以上を高齢者と再定義する動きも出てきている。それらの社会的要請を受け、学生の「高齢者観」の再構築が求められており、現代の学生が抱く高齢者観を整理することにより、超高齢社会に求められる看護医療者としての知識構築の一助としていく。

② 2020年度より新型コロナウイルス感染拡大に伴い、多くの医療機関で対面の面会制限が継続して行われてい中、病院では面会制限により家族と患者のコミュニケーション不足や認知症患者の意思決定問題に影響を及ぼしているとの報告がある。高齢者は新型コロナウイルスによる死亡率が高いため特に注意を要し、対面面会の代替案としてオンライン面会（テレビ電話システムや Web アプリのビデオ通話機能等のインターネットを利用する面会）の推進が行われているが、介護老人福祉施設で ICT の活用導入率は不明な点が多い。そこで、介護施設における ICT の活用を目指し、利用者のより良い療養環境づくり、介護者の介護負担を目指し、介護現場での ICT 導入現状把握を行っている。